

TRAFFIC SCOPE

交通参加者の行動を観察する

「TRAFFIC SCOPE」は交通参加者の行動観察を通じて、ドライバーやライダー、自転車利用者、歩行者に守るべきルールがあることを再認識してもらうための連載記事です。

横断歩道を渡る際、保護者は子どもの模範となって信号を守り、幼児とは手つなぎの徹底を！

DATA 基礎情報

歩行者が第1当事者となった交通事故の違反は信号無視が最多

2018年の人対車両の交通事故件数は4万4861件で、その半数以上は歩行者が道路横断中に起きている。また、歩行者が第1当事者となった交通事故の違反では信号無視が36.5%で最も多く、12歳以下の子どもが120%を占め

ている。道路交通法に基づき定められた「交通の方法に関する教則」では、父母などの保護者は子ども特に幼児に、右左をよく見て安全を確かめてから横断を始め、横断中もクルマに気をつけるという正しい横断の仕方を身につけさせるように繰り返し教えることを定めている。保護者が率先して信号を守り、模範を示すことによって、歩行中の子どもが交通事故に遭うリスクを低減できるだろう。

WATCHING 観察

幼児の3割以上が保護者と手をつないでいない

今回は、祝日午後の時間帯に東京都中野区の広町みらい公園前で観察を行った。公園前に設置されている横断歩道で、保護者と一緒に歩いている子ども（幼児と小学生）の横断時の信号遵守と保護者との手つなぎの状況（幼児のみ）を観察した。

2時間の観察の結果、保護者と一緒に横断した幼児・小学生は180名（幼児131名・小学生49名）で、このうち歩行者用信号機が青の点滅信号または赤信号で横断した幼児・小学生は7名（幼児5名・小学生2名）だった。歩行者用信号機は青の点灯時間が25秒、点

滅時間が5秒となっており、ほとんどの歩行者が余裕を持って渡っており、幼児・小学生を連れている保護者は信号が点滅信号になると横断歩道前で立ち止まり、一緒にいる子どももそれに従っていた。しかし、なかには、父親が点滅信号になった後、横断歩道に進入し、歩道上の子どもに「早く！」と促して赤信号で横断する場面もあった。また、幼児131名のうち保護者と手をつないでいたのは86名、手をつないでいなかったのが45名だった。保護者と手をつないでいない幼児は信号機が青になった瞬間、一目散に走り出してしまう。特に、小学生の兄や姉が走って渡ると、それを追いかけていく傾向がみられた。手をつないでいない幼児が点滅信号後に横断歩道を渡ろうとした際、保護者が大声で制止する場面もあった。



点滅信号で渡る保護者。後ろの子どもが横断を始める時は赤信号になっていた

ADVICE アドバイス

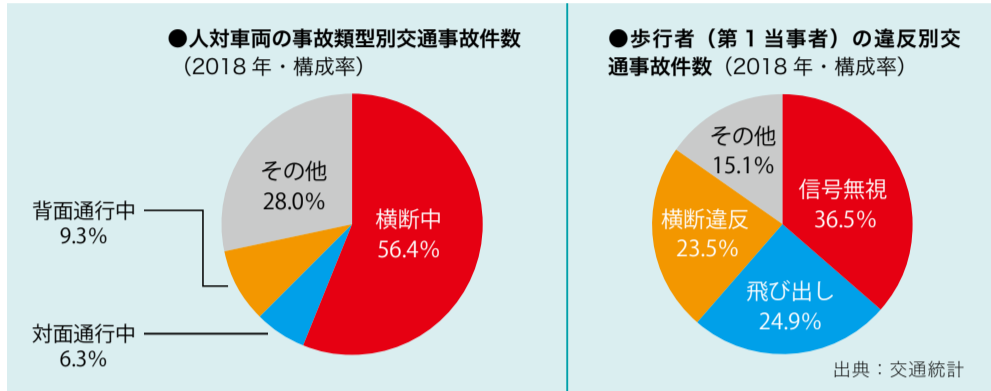
大人が正しい行動をしないと子どもは交通ルールを誤解する

今回の観察場所では、信号を遵守する保護者が多かった。子どもと一緒にいる時は、交通ルールを守ろうとする意識がはたっているのだろうか。しかし、点滅信号や赤信号になっているにも関わらず子どもに横断を促す保護者もいた。交通ルールを理解できない小さな子どもにとって、模範となる存在は身近にいる保護者である。保護者

が常に点滅信号後に横断していると、子どもたちが交通ルールを誤って認識してしまうだろう。また、横断する前に子どもと左右を確認する保護者はほとんどいなかったため、単に信号を守るだけではなく、安全確認も実践してほしい。周囲にいる大人が模範を示すことが子どもの交通安全教育においては重要である。幼児の場合、興味のあるものや知っている人を見かけると、突然、道路に飛び出すことがある。幼児と一緒に道路を歩く時は、保護者がしっかり手をつなぎ、目を離さないようにしてほしい。



今回の観察場所では保護者の多くが信号を守っていた



東京都中野区弥生町6丁目付近
 観察日 / 3月20日（金・祝）
 観察時間 / 14:30 ~ 16:30
 天候 / 晴れ

観察結果

●保護者と一緒に横断する幼児・小学生の信号遵守状況

	横断開始時の信号の状態			合計
	青	点滅	赤	
幼児	126	4	1	131
小学生	47	0	2	49
合計	173 (96.1%)	4 (2.2%)	3 (1.7%)	180

●幼児と保護者の手つなぎ状況

	手をつないでいた	手をつないでいない	合計
幼児	86 (65.6%)	45 (34.4%)	131

※幼児（未就学児）・小学生の判断は観察者の見解による



横断中にスマートフォンを注視している保護者



道路でペダルなし二輪遊具に乗っている幼児



横断歩道のない場所を斜め横断する保護者



信号待ちの間、子どもを抱きかかえる保護者



保護者が手をつないでいないため、青信号になったとたん走り出す子ども